院内勉強会の開催時期

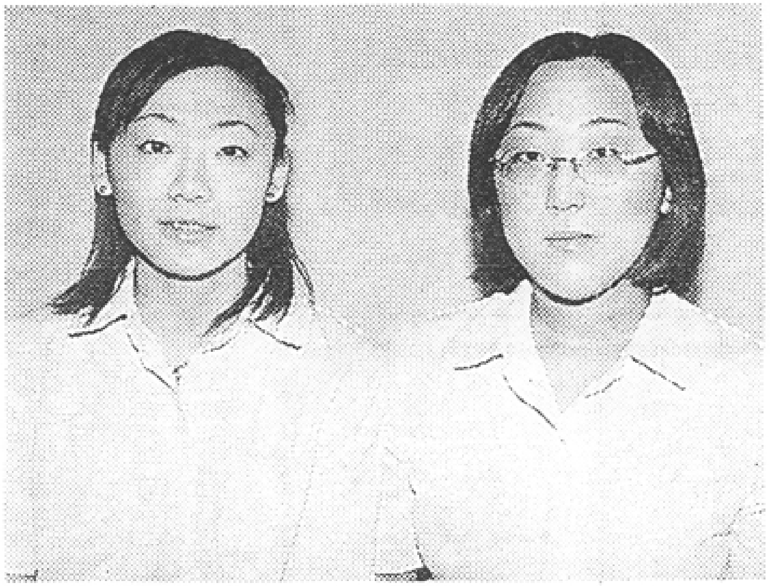
- １９９６年　市販ウインドウズレセプトマシン導入
- １９９８年　チェアーそれぞれに、コンピュータ、コードレス電話を配置。診療室すべてのコンピュータで処置入力、予約、会計システムが入力、管理が可能となる。
- １９９９年　タイポドントコースをスタッフ
  と１２名を対象に、週２回４週間開催。
- ２０００年　コンピュータセミナーを週２回、３ヶ月間開催。
- ２０００年12月　ISO14001取得のため、北海道工業技術センターに相談。

- 2001年　2月　週１回、 ISO9001の審査員コースを受けたかたを講師としてISO勉強会開催。
- 2001年6月日本成人矯正歯科学会大会にて
- 　ISO14001取得への取り組みと、谷間の口蓋裂児の再版について発表
- 大沼1周駅伝出場
- ２００２年９月札幌で行われたISO14001内部監査員研修コースを受講し、見事合格。
- 2003年9月　ISO14001認証取得
- 2004年5月　日本成人矯正歯科学会北海道大会のため、講師を招き英会話教室開催
- 年2回ニチイの歯科担当者を招き、講演

函館新聞掲載

ホームページで診療情報を発信

「矯正治療にもいろいろ方法があり、それを詳しく載せています」と話すのは、みはら歯科矯正クリニック（美原３の１、村井茂院長）の歯科衛生士、高島妙さん（27）＝写真左＝と、幸田知美さん（26）＝写真右。インターネットのホームページ（ＨＰ）を作成し、診療情報を発信している。



「パソコン操作の基礎から勉強し、本を読みながら取り組んだのですが、悪銭苦闘でした」と２人。矯正のほか、歯の漂白（ブリーチング）、摂食指導など口、歯に関する症状、治療法などの紹介を写真入りで作り上げた。

メールで相談も受けており「悩んでいる方がホームページを見て、相談したり，治療に来てくれれば」。今後は「顎関節症」も取り上げる予定。ＨＰアドレスは、ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ１．ｎｃｖ．ｎｅ．ｊｐ／～ｏｒｔｈｏ／

北海道新聞（夕刊） 2003年（平成15年）1月7日（火曜日）

「谷間の口がい裂児」再出版

自費で函館・みはら歯科矯正クリニック

函館市美原三の「みはら歯科矯正クリニック」（村井茂院長）がこのほど、一九七六年十一月に毎日新聞北海道支社から発行され、絶版になっていた「谷間の口がい裂児―この子らに健保を」（同支社報道部編）を自費で再出版した。村井院長は「口蓋裂（こうがいれつ）の子供やその家族がこの本を読んで、少しでも心の支えにしてもらえれば」と話している。

「少しでも心の支えに」

再出版した「谷間の口がい裂児」を手にするクリニックの歯科衛生士と村井院長

健保適用を求める　署名運動など描く

この本は口蓋裂の子を苦にした母親がその子を殺してしまった道内の事例や、当時は健康保険が適用されず多額の治療費がかかったこと、北海道から始まった健保適用を求める署名運動の様子などが描かれている。

口蓋裂は五百―八百人に一人と比較的高い頻度で現れる先天的な奇形。クリニックで口蓋裂児の歯科矯正も行う村井院長は「口蓋裂の子やその親が勇気づけられ、理解を深められる」と、この本を探していたが絶版のために販売されておらず、自費でも再出版したいと考えていた。

この春、クリニック職員を対象にパソコンの勉強会を開いたのを機に、歯科衛生士四人が出版に協力した。

出版元の許可を得て、仕事を終えた後や休日出勤もして、合計二百十一時間かけて文字入力や編集、校正に取り組み、出版にこぎつけた。

B6判、二百二十ページ。希望者に一冊三百円で販売している。

問い合わせは☎0138・47・3163へ。

北海道新聞掲載

函館新聞

（第3種郵便物認可）

2001年度 渡島管内決算

歳出、入とも前年同規模

決算規模縮小し緊縮型に

編集に携わったクリニックの職員。再発行した本を手に

みはら歯科矯正クリニック

絶版本を再発行

口蓋裂児の治療や手記

口蓋（がい）裂の子供と親に光を―。みはら歯科矯正クリニック（村井茂院長）は、毎日新聞社北海道発行所報道部（当時）が26年前に出版、その後絶版となった「谷間の口がい裂児　この子らに健保を―」を、自費で再発行した。口蓋裂にかかわるすべての治療に健康保険が適用されるまでの運動や、心の傷を負った親子の手記をまとめたもの。同院では「悲しい記録だが、現在も闘いを続ける親子に希望を持ってもらいたい」と話している。

口唇口蓋（がい）裂は、出生時に唇や上あごに割れ目ができる先天性の異常。生命に危険はないが、本人や家族の心理的負担も大きい。

治療は一般に生後4カ月で唇、1歳半で上あごを形成する手術を行う。20歳ごろまで歯の矯正や顔の骨格のゆがみ、唇の傷跡を目立たなくするなどの再手術が必要となる。26年ほど前の治療は大半が保険適用外で、満足な治療を受けられない子供が多かった。

文中には、毎日新聞社が当時、紙面で展開した健康保険適用を呼び掛け運動などを通じ、法改正に至るきっかけを記している。同院では、今も訪れる患者との触れ合いから再発行を決意。出版元の許可を受け、同院の歯科衛生士らが診療後の時間や休日を利用して手作業で編集。300冊を完成させた。

村井院長は「本人や親、周囲の理解が少しでも広がれば」と話している。本を希望する場合は1冊[illegible]い合わせはみはら歯科矯正クリニック☎47・3163。【阿部里子】

函館中央卸売市場　水産物市場

函館港　出船入船

函館新聞掲載

函館新聞掲載

2003年（平成15年）9月28日（日曜日）（2）

ISO14001取得

環境考えるきっかけに

みはら歯科矯正クリニック

医療法人「医仁会」が経営するみはら歯科矯正クリニック（函館市美原3）がこのほど、ISO14001を取得した。歯科医院の取得は全国的にも珍しく、同クリニックの村井茂院長は「環境について考えるきっかけにしたい」としている。

ISO（国際標準化機構）は、国際統一事項を積極的に定めている組織で、フィルム感度や非常口のマークなどの規格を定めている。

ISOには2つのシステムがあり、同クリニックが取得したのはISO14001で環境保全活動を効果的に行うための規格。函館市内の民間企業では「合資会社黒田商店」や「アシスト・フクダ」などが取得している。

同クリニックでは、歯科衛生士の高島佳枝さんを中心に「環境マネジメントマニュアル」を作成。環境に適切なクリニック活動や矯正医療サービスを基本方針に活動を展開していく。

村井院長は「人が幸せになるために（環境問題を）考え、取り組んできたい」と話している。（小豆畑　栄）

ISO14001を取得したみはら歯科矯正クリニック、前列左が村井院長

ISO１４００１の原点

「もったいない」

北海道新聞掲載

道新聞（夕刊） 2003年（平成15年）1月7日（火曜日）

「谷間の口がい裂児」再出版

自費で函館・みはら歯科矯正クリニック

少しでも心の支えに

健保適用を求める 署名運動など描く

函館市美原三の「みはら歯科矯正クリニック」（村井茂院長）がこのほど、一九七六年十一月に毎日新聞北海道支社から発行され、絶版になっていた「谷間の口がい裂児―この子らに健保を」（同支社報道部編）を自費で再出版した。村井院長は「口蓋裂（こうがいれつ）の子供やその家族がこの本を読んで、少しでも心の支えにしてもらえれば」と話している。

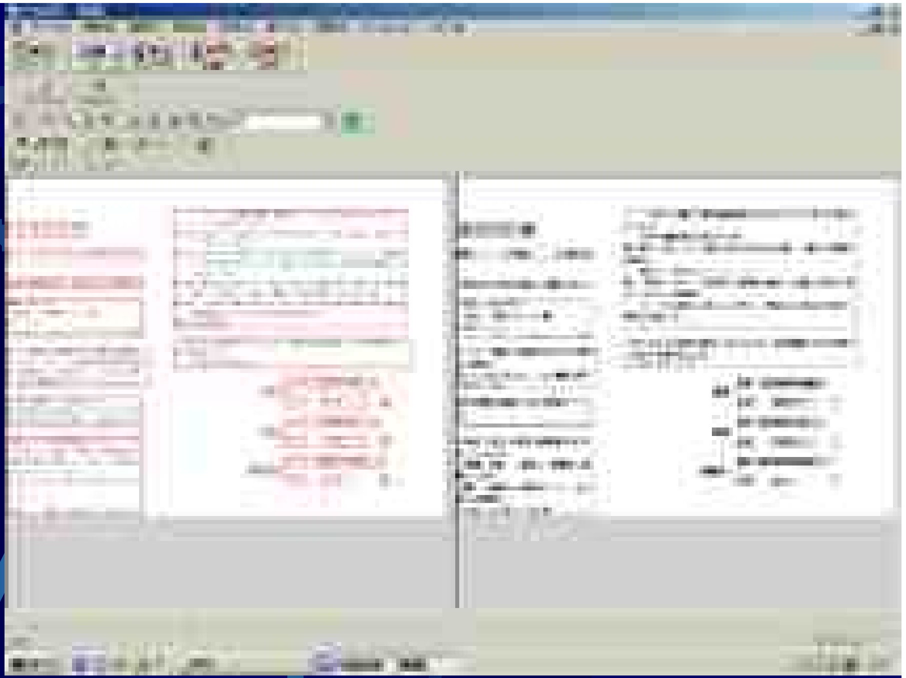
再出版した「谷間の口がい裂児」を手にするクリニックの歯科衛生士と村井院長

この本は口蓋裂の子を苦にした母親がその子を殺してしまった道内の事例や、当時は健康保険が適用されず多額の治療費がかかったこと、北海道から始まった健保適用を求める署名運動の様子などが描かれている。

口蓋裂は五百―八百人に一人と比較的高い頻度で現れる先天的な奇形。クリニックで口蓋裂児の歯科矯正も行う村井院長は「口蓋裂の子やその親が勇気づけられ、理解を深められる」と、この本を探していたが絶版のために販売されておらず、自費ででも再出版したいと考えていた。

この春、クリニック職員を対象にパソコンの勉強会を開いたのを機に、歯科衛生士四人が出版に協力した。

出版元の許可を得て、仕事を終えた後や休日出勤もして、合計二百十一時間かけて文字入力や編集、校正に取り組み、出版にこぎつけた。

B6判、二百二十㌻。希望者に一冊三百円で販売している。

問い合わせは☎0138・47・3163へ。